

仙台の今、未来への責任！

■発行/仙台市議会議員 野田ゆずる
〒981-3121 仙台市泉区上谷刈3丁目7-29-D103 Tel&Fax 022 (739) 9630

野田ゆずる議会レポート

令和5年第3回定例会報告

<https://www.y-noda.net>
info@y-noda.net

■ご意見・ご要望がありましたらお気軽にお寄せください。

今回の議会レポートは、令和5年第3回定例会報告です。
今定例会では、議案の審議のほか、仙台子ども財団の設立に要する費用等を追加する補正予算案などの議案の審議と、令和4年度決算の審査を行いました。

また、物価高騰等への支援の継続を求める6件の意見書が提案され、いずれも全会一致で可決され、国に送付しました。

今回のレポートは、私が代表質疑に登壇した際の質問と答弁の一部を記載させていただきました。

是非、一読いただき皆様の仙台市政へのご意見を頂戴したいと考えております。



▲令和5年第3回定例会代表質疑

令和5年第3回定例会 野田ゆずる代表質疑より

今後の施策推進の意気込みについて

野田 国外では、国の安全保障やエネルギー政策にも暗い影を落とす国際情勢の緊迫化、国内では、物価の高騰や深刻の度を増す少子化と社会経済の縮小など、厳しい状況にある。こうした中、都市経営をあずかる市長は、市民生活の安定、経済の成長、DXといった目下の潮流への対応など、将来を見据えつつ、市民の期待と信頼に添えていかなければならない。

本市が時代の流れに乗り遅れることなく発展を続けるためにも、これまで以上にリーダーシップを発揮し、確固たる姿勢で施策を推進することを期待する。

市長は、残る2年どのように市政の舵取りを行う考えか。任期の後半に臨み、施策をどう推進していくのか、今議会の冒頭にあたり、その意気込みを伺う。

答弁 私は「まちの中心はひと」との信念のもと、一人ひとりの活躍を後押ししながら、このまちの未来を確かなものとすべく、各般の施策を進めてきた。現在、都心再構築やDX、脱炭素社会への取組みが本格化しようとしている。また、折しも東北大学が国際卓越研究大学の認定候補となり、これらは、これまでの本市のまちづくりを一段上の段階へと高めていくまたない好機であると考えている。

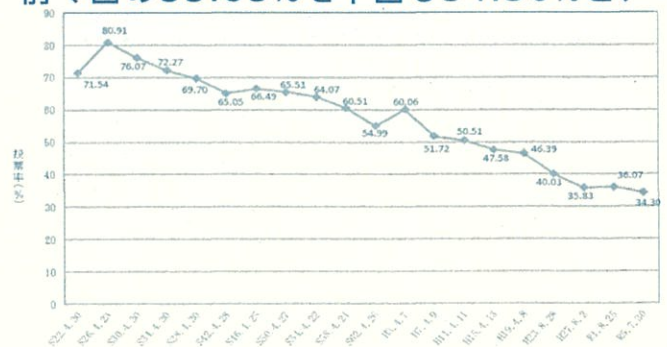
副市長の体制について

野田 社会経済情勢が目まぐるしく変化する中、行政需要はますます複雑多様化している。さらに、本市の将来にわたる発展を見据えた投資も積極的に進めていくなれば、関係者や国との調整、国際展開など、担う役割は大きくなる。こうしたことを考えると、3人目の副市長人事について視野に入れるべきではないか、市長の考えは。

答弁 仙台市政の目指すべき方向性を展望しながら、喫緊の様々な政策課題に対し的確に対応していくため、3人目の副市長のあり様については、その役割も含め、熟慮を重ねていきたい。

選挙の投票率について

野田 今回の市議会議員選挙の投票率は、前々回の35.83%を下回る34.30%と、



過去最低であった。猛暑が続く中での投票であったにせよ、7割近くの有権者が投票所に行かない現状に、危機感を抱かざるを得ない。投票率の向上はまさに喫緊の課題だ。

選挙管理委員会としても啓発に力を入れてきたと承知しているが、この際、思い切った対策が必要ではないか。他都市では、交通の要衝である鉄道駅、大型商業施設や大学キャンパスへの期日前投票所の設置など、投票しやすい環境づくりに取り組んでおり、こうした目に見える投票環境の改善が効果的と考える。

前回も指摘したが、危機意識は持っているものの理由をつけて手を打たない、これが本市選挙管理委員会の姿勢だと受け止めている。所見と今後の投票率向上の取り組みについて改めて伺う。

答弁 現在、実施している市民意識調査の結果や他都市における商業施設への期日前投票所設置事例などを踏まえ、選挙管理委員会事務局とともに投票環境の改善に向けた具体策を検討していく。

また、これと併せて、選挙啓発についても、選挙時の啓発だけでなく主権者教育の充実や出前授業の実施など、若年層へのさらなる啓発に努めていきたい。

多様性と共生のまちづくりについて

野田 多様性と共生のまちづくりについて、人口減少の時代にあって、都市が持続的に活力を維持するには、国内外との交流を飛躍的に伸ばし、多様な国際人材を受け入れ、活躍できる街をつくるのが肝要だ。もとより本市は、多様な市民の活躍を大切にし、育ててきた都市であり、アフターコロナ、人口減少、厳しい都市間競争の時代の中で、世界に通用する「選ばれる都市」を目指すのであれば、女性、障がい者や外国人も含め、多様性、ダイバーシティを活かし、都市の力に変えるまちづくりを掲げ、強力に推進することが求められる。市長の所見を伺う。

また、パートナーシップ制度についてどのような検討を進めてきたのか。国において理解増進法が施行さ

#ジェンダー

変える



れた今、導入を躊躇する理由はあるか。市長の所見を伺う。

答弁 私は、全ての市民の皆様が生き生きと輝き、持てる力を発揮できることがまちの活力の源泉であるとの考えのもと、市政の基本に据えてきた。多様性を尊重し受容する理念が世界の大きな潮流になっており、その思いを強くしたところだ。

模索してきたパートナーシップ制度については、来年度中の制度の導入に向け、男女共同参画推進審議会において要綱の策定に向けた具体的な議論をスタートする。全ての市民の皆様の多様性を尊重することにより、まちの包摂的な成長を通じた、世界から選ばれる都市の実現を目指して、取り組んでいく考えだ。

経済成長戦略について

野田 令和6年度からの新たな戦略策定に向けた検討を行っているが、地域の事業者の声を十分に把握し、的確な支援を行うことで、経済活性化にしっかりとつなげる必要がある。現在の検討状況を伺う。次期計画における経済政策の方向性と、進め方についても伺う。

答弁 11月を目途に中間案をとりまとめ、議会での議論やパブリックコメントを踏まえ、年度内に公表する予定としている。

本市経済を持続的に発展させるためには、東北大学やナノテラスなど、本市の強みを最大限に生かしつつ、人材の確保や育成、DX化などへの対応なども必要で、取り組みの進捗状況をモニタリングしつつ、経済環境の変化に機敏に対応できるよう、検討を進めていきたい。

民間投資の促進について

野田 都心再構築プロジェクトが始まった令和元年度以降、複数の開発事業が公表され、ビル開発の動きが活発化している。現状や、プロジェクトの効果についてどのように捉えているか伺う。

答弁 今年度に入って、電力ビル街区での再開発に向けた準備組合の設立や、藤崎百貨店一帯での再開発に向けた地元組織の発足など、都心部における開発の動きが出てきたところで、施策の効果が出始めていると認識している。

このほか、建替・更新に向けて検討を進めている案件の相談もあり、それらの事

業化による、都心部での更なる民間投資の機運につながっていくよう、取り組みを進めていく。

野田 支援策の期限延長など、事業者の投資意欲を高めていく取り組みの継続が必要と考えるが、如何か。

答弁 期限延長を検討するほか、首都圏プロモーションイベントの機会を利用した投資環境の積極的な周知を行うなど、引き続き、都心再構築に力を注いでいく。



アリオ仙台泉店の閉店について

野田 閉店は、泉中央エリアのまちづくりに大きな影響を及ぼす。現在、泉区役所建替えを契機としたエリアの活性化に取り組んでいるところであり、閉店後についても、所有する民間事業者任せではなく、本市としても積極的に関わり適切な支援を行っていくべきと考えるが如何か。

答弁 泉区役所の建替えにあわせ、このエリア一体のまちづくりを進めており、現在建物を所有する事業者が閉店後のあり方を検討していることから、密に情報交換を行い、庁内関係部署とともに新たな魅力や交流の創出に向け、連携して取り組んでいきたい。

野田 今後は、これまで地域の生活を支えた従業員の皆さまの再就職に向けた支援が重要となる。すべての従業員の方々が希望する再就職を果たせるよう、どのような対応を行っていくのか伺う。

答弁 出張相談を実施するハローワークとも連携を図りながら、再就職支援を行っている。関係機関と共有し、従業員の方々にお届けするなど、今後とも、多くの方が再就職を実現できますよう取り組んでいく。

今後の観光振興について

野田 市長が「観光再生元年」と位置付けた本年度、半年が過ぎようとしているが、この間の取り組みの手応えと、さらなる飛躍に向けた方向性について伺う。

答弁 観光地として選ばれる都市を目指し、観光需要の一層の拡大を図るため、今月末から、本市独自の宿泊促進キャンペー

ンを実施するほか、首都圏や関西での観光物産展の開催や、インバウンドの新たな市場開拓に向けたプロモーションなどを予定しており、引き続き、交流人口の拡大に向けて取り組んでいく。

野田 インバウンドも含め、激しさを増す都市間競争に打ち勝つためには、できるだけ早期に、宿泊税などしっかりした財源を確保したうえで、さらなる観光振興策を打ち出し、仙台・東北の交流人口拡大を図っていく必要がある。新たな財源確保の検討策を再開する時期に来ているのではないかと考えるが、市長の考えは。

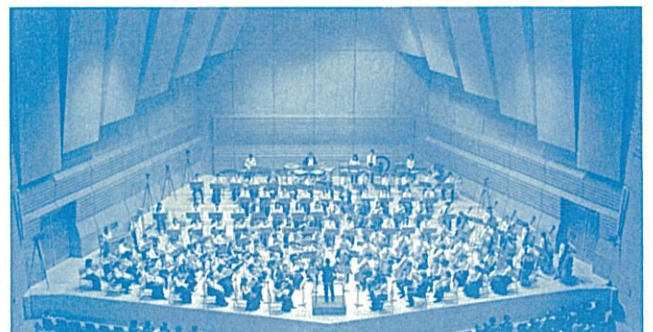
答弁 安定的な財源確保は避けては通れない課題で、観光関連事業者をはじめ、関係する皆様のご意見を伺いながら、今後、力を入れていくべき観光施策に加え、宿泊税など新たな財源確保のあり方についても、検討を進めていく。

音楽ホールの整備について

野田 本市が整備するホールは、生音源の音響を重視しつつ、多様な舞台芸術に対応できる2,000席規模のホールとする計画だ。一方、県が進める新県民会館は、電子音響重視のテクノロジー進化に対応するという基本方針を維持しつつも、オペラやバレエなどにも対応可能な約2,000席規模の計画となっている。

新県民会館の準備が進む中、本市の音楽ホールはどのように独自色を打ち出していくのか。

答弁 優れた音響性能を実現するため、世界的に著名なホールを手掛けてきたコンサルタントに参画していただいております。基本計画段階から音響コンサルタントを導入するのは、国内の公共ホールでは初めてのことであり、生の音の響きを重視しつつ、幅広い文化芸術活動が展開されるホールとなるよう、引き続き検討を進めていく。



質問 幅広い市民に受け入れられていくためには、ハード・ソフト両面からの取り組みが欠かせない、どのように取り組まれる考えか。

答弁 施設内には、遊び場としても活用できる「子どものための空間」を設置し、親子連れが楽しみ、憩えるような施設を目指すとともに、周辺の学校、施設とも連携した取り組みも展開することで、多くの若い世代に利用される拠点を目指したい。

敬老乗車証制度について

質問 敬老乗車証制度について検討を進めるとの方針を示している。これまでの審議経過と議論の状況について伺う。

答弁 高齢化の進展に伴い事業費増加が見込まれることに加え、介護需要の拡大等により高齢者施策全般の事業費も増加する見通しで、敬老乗車証を将来にわたり利用いただくためには、利便性向上策も含めた制度の見直しが必要と考えている。

今後、議会でのご議論や審議会における審議状況を踏まえ、速やかに具体案の取りまとめを進めていく。

4病院の再編について

質問 県が4病院の再編統合案を公表してから2年が経過したが、疑問や反対の声が日増しに大きくなっているように見える。精神保健福祉審議会でも、誘致案への賛同はなく、事態は極めて深刻だ。こうした状況のまま、センターの移転や、4病院の再編に至れば、将来の医療体制に禍根を残してしまう。県は、拙速に事を運ぶことなく、丁寧な議論を行い、検討を進めるべきと考えるが、市長の認識と今後の対応について伺う。

答弁 県精神保健福祉審議会でも賛同が得られておらず、十分な検討を経ないまま手続きが拙速に進められることについては、容認できるものではない。県には、事を急ぐことなく、本市への回答を含め、誠実かつ丁寧な対応を行うよう、引き続き強く求めていく。

不適切な事務処理について

質問 不適切な事務処理の発生を未然に防ぐため導入された内部統制制度は十分に機能しているのか。単純な不注意にとどまらず、長年にわたって上司も気付かず、間違った事務処理が繰り返されてきた案件が多いように思われる。個々の職員の意識向上に訴えかけるだけでなく、組織や事務のあり方といった根本的な課題にまで踏み込んだ対策が必要と思うが、認識を伺う。

答弁 現状と課題の検証をすみやかにを行い、その結果を踏まえながら、全市共通で行っている定型的な業務の集約化などによって、本庁と区役所の十分なコミュニケーションのもと、職員が担うべき業務に注力できる組織・人員体制が構築できるよう、進めていく必要があると考えている。

加えて、デジタル技術の活用により、ミス防止のみならず業務効率化に資する事例も現れていることから、引き続きこうした取り組みを進め、適正事務の確保と市民サービスの向上に全力を尽くしていく。

郵便はがき

9 8 1 - 3 1 9 0

(受取人)
泉区上谷刈3丁目7-29
D棟103

仙台市議会議員(泉区)
野田 ゆずる 行

料金受取人払郵便

泉 局
承 認

3062

差し出し有効期間
2025年
4月30日まで

切手不要

あなたの声をお聞かせくださいお聞かせください



お名前	フリガナ	生年月日
ご住所	□□□□□□□□	
電話番号	()	ご職業
アンケート	あなたが重視する、仙台市政の課題は何でしょうか？(複数回答可) <input type="checkbox"/> 安心・安全の防災対策 <input type="checkbox"/> 価格高騰への支援 <input type="checkbox"/> 子育て支援・教育の充実 <input type="checkbox"/> 行財政改革・議会の活性化 <input type="checkbox"/> 福祉・介護の充実と弱者支援 <input type="checkbox"/> 国土強靱化・インフラ整備 <input type="checkbox"/> 地元経済の活性化 <input type="checkbox"/> 4病院再編への対応	
ご意見		

皆様からご記入いただきました個人データは「野田ゆずる議会報告」等の連絡などに使用しそれ以外の使用はいたしません。

声をお聞かせください

仙台市や地域に思う事や、行政や国に対して思う事など皆様のお考えをお聞かせください。左記のハガキにお書きいただき、お近くのポストにご投函お願い致します。